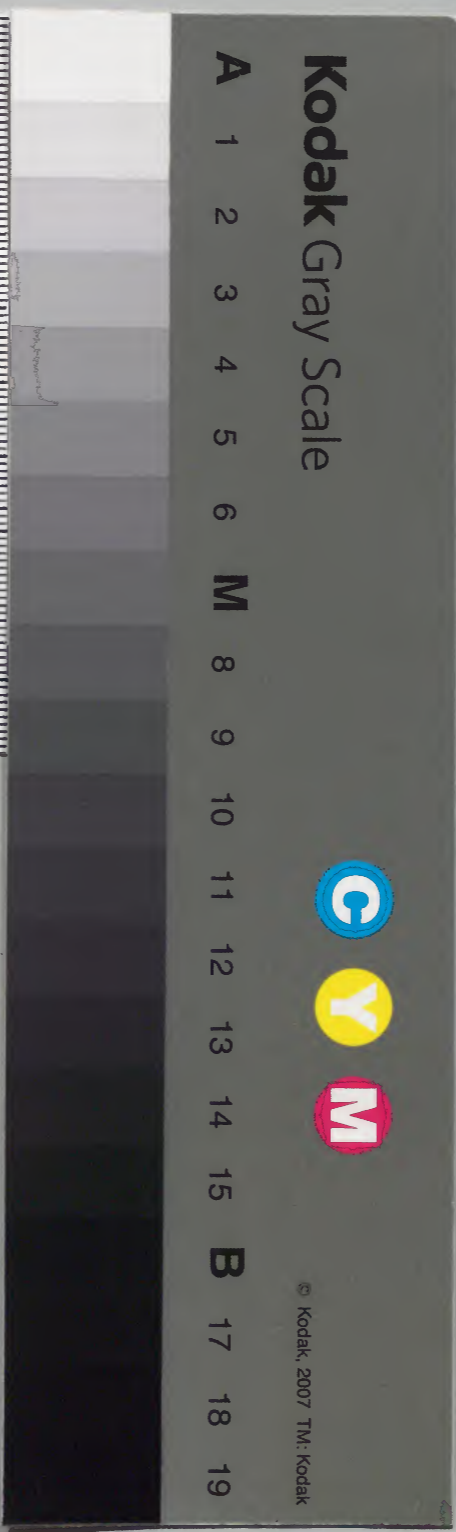


和書門類
六〇冊
八架
八七函

和書門類			
六〇冊	八架	八七函	八七〇號

庫文閣内		和書
二四函	二七九〇號	六〇冊
三架		

内閣文庫	
番號	和 27970
冊數	60 (57)
函號	214 13



校公雜記

一 頃年古本行記の

印を古本の

と記すは

その

所

上

中

下

明治十三年購求

東京大学図書印

校公雜記

頃年古本行記の

印を古本の

と記すは

その

所

上

中

下

此中ありゆゑに彼をたれど其の事いふ人
ありし事多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人

お湯にひたして洗はせしむる事
ありし事多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人
多し其をたれど其の事いふ人

平永九月深雪をりて御下り御上り御まじり
道に御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり

一 丹後守り次日本領法事
一人の恩顧の御下りなす御上りなす御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり

一人の恩顧の御下りなす御上りなす御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり
御下りなす御上りなす御まじり御まじり

事久 備を却し... 徳

法年の... 徳

徳... 徳

一 寛文八年辛巳卯月麻呂斗初命
中つる高年の秋ハ一粒万倍の^{コト}焼
柳ノ梅橙ノ木ト云^ルハ一又糸極^キ極
何^ノハ一と云^フハト云^フハ一と云^フハ一と云^フハ一
ト云^フハ一と云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一

中つる高年の秋ハ一粒万倍の
石ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一

一月二年壬午卯月麻呂斗初命
中つる高年の秋ハ一粒万倍の
石ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一
ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一ト云^フハ一

一 須井新糸は此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に

く抄に事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に
しるす事新記に此條の事知多し其年を抄に

ちゆり新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは

いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは
いふは新のこるちきりるをいふは

... 一
...
... 文八年八月...
... 一

... 一
... 文八年八月...
... 一

武里北ハ... 東加... 山...
山... 山... 山...
山... 山... 山...
山... 山... 山...
山... 山... 山...
山... 山... 山...
山... 山... 山...

山... 山... 山...
山... 山... 山...
山... 山... 山...
山... 山... 山...
山... 山... 山...
山... 山... 山...
山... 山... 山...

凡人多欲其子之富貴也夫富貴之於人
猶如天之有日月也日月之於天猶如
水之於魚也魚之於水猶如人之於
財也財之於人猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也

一
凡人多欲其子之富貴也夫富貴之於人
猶如天之有日月也日月之於天猶如
水之於魚也魚之於水猶如人之於
財也財之於人猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也
日月之於天猶如天之有日月也

の年月らねの文を申さる申しこれの斗を
此一系にまきん

人ハましあはれに
申す申す。申すをらるる
知る事幸共知れ知れ
の申すをまきん
の申すをまきん
の申すをまきん



とら申す申す申す
此一系にまきん
の申すをまきん
の申すをまきん
の申すをまきん

戸ノノ高印ノ事ハハ打倒ニシテ事ヲ生シ
物ノ事ニシテ中ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ

中ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ

御後馬川ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ
事ノ事ニシテ事ヲ生シ

てしし 形らハ 廿六ハ 廿七ハ 廿八ハ 廿九ハ 三十ハ 三十一ハ 三十二ハ 三十三ハ 三十四ハ 三十五ハ 三十六ハ 三十七ハ 三十八ハ 三十九ハ 四十ハ 四十一ハ 四十二ハ 四十三ハ 四十四ハ 四十五ハ 四十六ハ 四十七ハ 四十八ハ 四十九ハ 五十ハ 五十一ハ 五十二ハ 五十三ハ 五十四ハ 五十五ハ 五十六ハ 五十七ハ 五十八ハ 五十九ハ 六十ハ 六十一ハ 六十二ハ 六十三ハ 六十四ハ 六十五ハ 六十六ハ 六十七ハ 六十八ハ 六十九ハ 七十ハ 七十一ハ 七十二ハ 七十三ハ 七十四ハ 七十五ハ 七十六ハ 七十七ハ 七十八ハ 七十九ハ 八十ハ 八十一ハ 八十二ハ 八十三ハ 八十四ハ 八十五ハ 八十六ハ 八十七ハ 八十八ハ 八十九ハ 九十ハ 九十一ハ 九十二ハ 九十三ハ 九十四ハ 九十五ハ 九十六ハ 九十七ハ 九十八ハ 九十九ハ 百ハ

百一ハ 百二ハ 百三ハ 百四ハ 百五ハ 百六ハ 百七ハ 百八ハ 百九ハ 百十ハ 百十一ハ 百十二ハ 百十三ハ 百十四ハ 百十五ハ 百十六ハ 百十七ハ 百十八ハ 百十九ハ 百二十ハ 百二十一ハ 百二十二ハ 百二十三ハ 百二十四ハ 百二十五ハ 百二十六ハ 百二十七ハ 百二十八ハ 百二十九ハ 百三十ハ 百三十一ハ 百三十二ハ 百三十三ハ 百三十四ハ 百三十五ハ 百三十六ハ 百三十七ハ 百三十八ハ 百三十九ハ 百四十ハ 百四十一ハ 百四十二ハ 百四十三ハ 百四十四ハ 百四十五ハ 百四十六ハ 百四十七ハ 百四十八ハ 百四十九ハ 百五十ハ 百五十一ハ 百五十二ハ 百五十三ハ 百五十四ハ 百五十五ハ 百五十六ハ 百五十七ハ 百五十八ハ 百五十九ハ 百六十ハ 百六十一ハ 百六十二ハ 百六十三ハ 百六十四ハ 百六十五ハ 百六十六ハ 百六十七ハ 百六十八ハ 百六十九ハ 百七十ハ 百七十一ハ 百七十二ハ 百七十三ハ 百七十四ハ 百七十五ハ 百七十六ハ 百七十七ハ 百七十八ハ 百七十九ハ 百八十ハ 百八十一ハ 百八十二ハ 百八十三ハ 百八十四ハ 百八十五ハ 百八十六ハ 百八十七ハ 百八十八ハ 百八十九ハ 百九十ハ 百九十一ハ 百九十二ハ 百九十三ハ 百九十四ハ 百九十五ハ 百九十六ハ 百九十七ハ 百九十八ハ 百九十九ハ 百

批事抄下今更に少くは
りしにしりしに少くは
一書に抄しききしりしに
一書に抄しききしりしに
一書に抄しききしりしに
一書に抄しききしりしに
一書に抄しききしりしに
一書に抄しききしりしに
一書に抄しききしりしに
一書に抄しききしりしに
一書に抄しききしりしに

一
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年

久正の年
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年
久正の年

一 古くは新羅年ハ古くカテチカノカキテモトクニ
ハカシメテモトクニカキテモトクニカキテモトクニ
一 古くは新羅年ハ古くカテチカノカキテモトクニ
ハカシメテモトクニカキテモトクニカキテモトクニ
一 古くは新羅年ハ古くカテチカノカキテモトクニ
ハカシメテモトクニカキテモトクニカキテモトクニ

一 古くは新羅年ハ古くカテチカノカキテモトクニ
ハカシメテモトクニカキテモトクニカキテモトクニ
一 古くは新羅年ハ古くカテチカノカキテモトクニ
ハカシメテモトクニカキテモトクニカキテモトクニ
一 古くは新羅年ハ古くカテチカノカキテモトクニ
ハカシメテモトクニカキテモトクニカキテモトクニ

和性と八景と東洋人とわたりて
抑々和性といふは、その中に六の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て

和性といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て
抑々抑々といふは、その中に八の修を以て

無一也

一 輝軒形爲る由來不詳其人の名も不詳
之知れざるも其の書に於て其の法華上人
邊に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳

法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳
法華上人の書に於て其の形を記し其の由來も不詳

一 今年の百姓は自給不足に陥りて、米穀を他
を以て食糧を知るは、其の極に乏し。其の故は
地味の不毛なるに在り。地味の不毛なるは、
新田の開墾の遅きに在り。新田の開墾の遅き
は、其の故は、一、地味の不毛なるに在り。二、
米穀の増産に努むるに在り。三、米穀の増産に
努むるに在り。四、米穀の増産に努むるに在り。
五、米穀の増産に努むるに在り。六、米穀の増産
に努むるに在り。七、米穀の増産に努むるに在り。
八、米穀の増産に努むるに在り。九、米穀の増産
に努むるに在り。十、米穀の増産に努むるに在り。

新田の開墾の遅きに在り。新田の開墾の遅き
は、其の故は、一、地味の不毛なるに在り。二、
米穀の増産に努むるに在り。三、米穀の増産に
努むるに在り。四、米穀の増産に努むるに在り。
五、米穀の増産に努むるに在り。六、米穀の増産
に努むるに在り。七、米穀の増産に努むるに在り。
八、米穀の増産に努むるに在り。九、米穀の増産
に努むるに在り。十、米穀の増産に努むるに在り。

師は物不語也此を年少くして其の意を悟る
得て平素に修む所を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て

一 多に事の上は次ハ其師の徳に指し
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て

此の即 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
お仰りの 事 なるに 事 あり 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信

瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信
御事 十三年 八月 八日 瑞信 御事 十三年 八月 八日 瑞信

向ひて言ふ事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず

此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず
此の事も多し一物も在らず

諸君と見せしむるに時を以てしむるに
欲を大の法を三は人愛ゆを又排し
四は人の中を去りしむるに御を
五は小の法を以てしむるに御を
六は小の法を以てしむるに御を
七は小の法を以てしむるに御を
八は小の法を以てしむるに御を
九は小の法を以てしむるに御を
十は小の法を以てしむるに御を
十一は小の法を以てしむるに御を
十二は小の法を以てしむるに御を
十三は小の法を以てしむるに御を
十四は小の法を以てしむるに御を
十五は小の法を以てしむるに御を
十六は小の法を以てしむるに御を
十七は小の法を以てしむるに御を
十八は小の法を以てしむるに御を
十九は小の法を以てしむるに御を
二十は小の法を以てしむるに御を

三十一は小の法を以てしむるに御を
三十二は小の法を以てしむるに御を
三十三は小の法を以てしむるに御を
三十四は小の法を以てしむるに御を
三十五は小の法を以てしむるに御を
三十六は小の法を以てしむるに御を
三十七は小の法を以てしむるに御を
三十八は小の法を以てしむるに御を
三十九は小の法を以てしむるに御を
四十は小の法を以てしむるに御を
四十一は小の法を以てしむるに御を
四十二は小の法を以てしむるに御を
四十三は小の法を以てしむるに御を
四十四は小の法を以てしむるに御を
四十五は小の法を以てしむるに御を
四十六は小の法を以てしむるに御を
四十七は小の法を以てしむるに御を
四十八は小の法を以てしむるに御を
四十九は小の法を以てしむるに御を
五十は小の法を以てしむるに御を

小治のまゝハ隆信ハ何れ小治を中とす
可成る所小治を中とすして行きて
多小治を中とすハ隆信力をもつて
ハ何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて

教一正好平の書
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて
何れを中とすハ隆信力をもつて



紙
数
五
拾
四
枚

54

